

## 《歴史文化・文化財》

### 五十嵐商店

本町四ツ角周辺に残る、関東大震災の復興に伴い建てられた洋風建築物のひとつ。1925年（大正14）建築、その後、洋風店舗に増改築し昭和3年に竣工



現在の形となっている。木造軸組構法を用いて建てられた3階建ての看板建築で、1989年(平成元)に「かながわの建築100選」に選ばれている。

### 延命地蔵



高さ3.7mの石造りの大きな地蔵で、江戸時代に江戸商人が米寿を記念し造立したといわれている。長寿を願う地蔵として、地元の人々に信仰され続け、毎年1月23日と8月23日の縁日には賑わいを見せている。

## 極楽寺木造十一面観音菩薩立像



像高 105cm のヒノキの寄木造り。平安時代後期の作で、この頃の寄木造りの仏像は県内でも数少ない。丸い顔に豊かなほお、衣の浅い彫りや柔らかな曲線は、典型的な藤原彫刻といえる。安産、子育ての観音として古くから信仰されてきた。1979年(昭和54)に市重要文化財に指定。

## 石造六地藏尊像（峠の六地藏）

高さ 30 cm内外の小型の石像で、中の一体には 1444 年(文安元)の銘がある。通常、六地藏は江戸時代以降のものが多く、室町時代初期の石仏は貴重である。1965 年(昭和 40) に市重要文化財に指定。



## 東光寺仁王門

市内唯一の朱塗の三間楼門で、階段が門の棟通りまで設けられている珍しい造り。明治期に書かれた『中野建明知事宛取調調書』に「1774年(安永3年)の建設」と記されている。



## 東光寺薬師堂木造薬師如来立像



像高 127 cmの寄木造りで、市内の数多い薬師如来像の中でも最も古いものであり、県下の南北朝時代頃の彫刻を明らかにする重要なものである。左手には薬つぼを持っているが、右手がないことから「片手薬師」と呼ばれる。1965年(昭和40)に市重要文化財に指定。

## 戸川原の双体道祖神



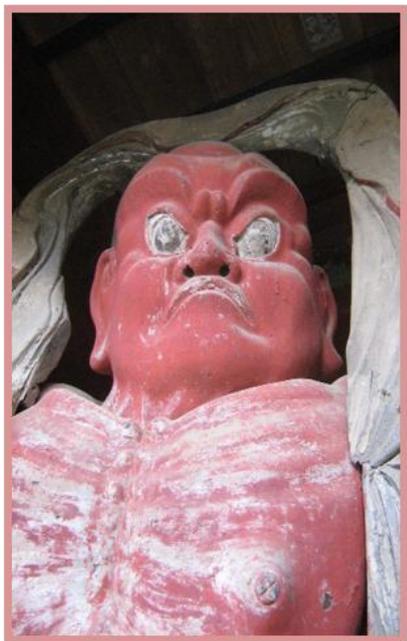
1669年(寛文9)に造立された市内で最も古い道祖神。砂岩から造られた舟型の双体像で、現在は覆いがされ、風化から石仏を守っている。2012年(平成24)に市重要文化財に指定。

## 平沢神明神社 地域の信仰の社



個人持ちの社。大絵図や古文書等の記録はないが、江戸時代に建立されたと伝えられ平沢中丸地区では、今も講が開かれている。お堂には正一位中丸稻荷・大国主大神・天神菅原道真が奉られている。

## 宝蓮寺木造二王立像



宝蓮寺大日堂二王門の左右に安置される阿吽  
一對の像で、向かって右に阿形、左に吽形を  
配している。(見出し写真は、吽形像)寄木造、  
彫眼で制作時期は 12 世紀半ば平安後期と推  
定されている。県下においては現存最古、東  
国では 2 番目に古く、彫刻史上でも、秦野市  
の仏教史にとっても極めて重要な古像である。  
2008 年(平成 20)に市重要文化財に指定。

## 前田夕暮歌碑(弘法山公園)

秦野出身で自然主義の代表歌人である前田夕暮の「生くることか  
なしと思う山峡は はだら雪ふり 月照りにけり」の歌碑は、1951  
年(昭和 26) 秦野高校創立 25 周年記念として造られた。なお、碑  
の運搬は高校生が行った。



## 源実朝公御首塚



鎌倉幕府 3 代将軍源実朝が 1219 年(建保 7)に暗殺されたが、武常晴が実朝の首を、この地に埋葬したという伝承がある。当初の五輪塔は木造だったが、1250 年(建長 2)に波多野忠綱が金剛寺を再興した時、石造に代えたと言われている。1971 年(昭和 46)に市重要文化財に指定。

## 命徳寺山門



江戸時代初期に建築された茅葺き屋根の山門は、薬医門という形式で、市内では珍しい形式。横から見ると屋根全体が前に片寄る形になっている。2003 年(平成 15)に市重要文化財に指定。

## 山ノ神堰堤



1932年（昭和7）に水無川に建設された砂防堰堤。北伊豆地震による丹沢水系の山崩れを契機とした内務省直轄事業によって竣工された。2003年（平成15）3月に国の登録文化財となった。国登録文化財の堰堤は、戸川、猿渡もある。

## 落花生（秦野の産業文化）



秦野では、たばこ葉耕作の裏作として落花生が栽培

が盛んで、市内には落花生を扱う商店が数多い。1895年（明治28）に市内で初めて落花生加工店を開業した豆峰商店（写真）をはじめ、かまか商店、豆芳など多数の商店がある。

## 龍法寺木造不動明王立像



寄木造、彩色の仏像で不動明王としては、表情はおとなしく肉付きも少ない作品。頭部に墨書銘があり、1534年(天文3)鎌倉仏師の大蔵長盛によって造立したことがわかる。1990年(平成2)に市重要文化財に指定。

## 緑水庵



1930年(昭和5)に今泉の旧芦川家として建てられ、1991(平成3)に現在地(蓑毛)に移築復元された。当時の一般的なたばこ農家に見られる建築様式で、田の字型四間取り、屋根は麦わら葺きとなっていた。

内部の土間には農具や日用品も展示され、農家の暮らしを知る上で貴重なものとなっている。